

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 1	公益目的事業 11
主査名	松浦常夫 実践女子大学教授	
研究テーマ	路側帯のある道路を通行する歩行者の安全志向行動	
本研究では、観察調査によって路側帯通行歩行者の安全志向行動を調べる。それは諸外国に比べて多い我が国の歩行者事故が多い理由の1つに、まだ未整備な歩道や路側帯があるからである。また、歩行者側にも安全意識の欠如があって事故原因の1つとなっている。 歩行者交通量が多いのに歩道がなかったり、路側帯が狭かったりすると歩行者事故の危険性が増加する。たとえば、路側帯が狭いとそこからはみ出して歩行することが多くなり、車道での歩行者事故が多くなる。全国統計によれば、車道での事故は路側帯での事故と比べると、1.3 倍から 1.4 倍、死亡や重傷になりやすい。また、左側通行は自分の背後から車がくる（背面通行）ために車を発見しにくい。事故統計を見ても、背面通行中の事故は対面通行中の事故より 1.5 倍多く発生し、死亡事故に限れば 3 倍近い。 こうした事故統計の背景には、未整備な歩道や路側帯を通行する際の歩行者の不安全な行動があると考えられるので、その実態を調べることにする。 そこで、路側帯を通行する歩行者が安全を考慮した歩行行動をしているか否かについて明らかにし、また、安全志向行動に影響する要因を考察し、1 人歩行に比べ、歩行者集団の人数が多くなると、歩行行動がどう変化するかについても調べることを目的に、仮説を立て、路側帯を通行する歩行者の属性と行動を観察する。 観察対象路側帯は、幅員が 75cm の路側帯 1 か所と幅員が 1.5m の路側帯 1 か所、計 2 か所の道路の路側帯を観察対象場所とする。また各道路では左右の路側帯を観察対象とし、観察路側帯は 4 か所とする。 観察方法は、対象路側帯に 10m の区間を設定し、そこを歩行する歩行者を上方からビデオ撮影した。10m 区間は交差点から 30m 以上離れた単路部とする。観察時間は、各箇所とも通勤・通学の歩行者が多い平日朝の 2 時間と買物等の私用で歩く人が多い土曜午後の 2 時間とする。 観察項目は、8 箇所の各々で、歩行者が 1 人、2 人の集団、3 人の集団、4 人以上の集団の 4 つの場合に分けて観察ファイルを作成する。1 人の場合の項目は、歩行者の属性として性別（男・女）、年齢（子ども、中高生、大人、高齢者）を調べ、歩行者の行動としては、通行する側（道路の左・右）、10m 区間通過所要時間、対向歩行者集団の人数（0 人、1 人、2 人、3 人以上）、歩行速度の変化（変化なし、一時的に速度上昇、一時的に速度低下、一時的に停止）、歩行位置の変化（変化なし、右に移動、左に移動）、車道へのはみだしの有無（なし、一時的に有り、ずっと有り）、対向歩行者との接触（なし、あり）を調べる。		